

自由民主党政務調査会  
社会保障制度調査会 介護委員会

『介護現場における  
生産性向上に向けて』

KAIZIREN



一般社団法人

全国介護事業者連盟

理事長 齊藤正行

令和4年6月3日（金）

# 当団体について

法人形態	一般社団法人
法人名	全国介護事業者連盟
設立年月日	2018年6月
本部所在地	東京都千代田区麴町4丁目
代表者	斉藤正行

介護・障害福祉事業者による横断的(法人・サービス種別)組織体制

「産業化の推進」・「生産性向上の推進」を2大テーマとする。

介護・障害福祉事業者会員数 : 2,049社 13,868事業所

※令和4年6月現在

居宅サービス分

# 介護サービス事業における 生産性向上に資する ガイドライン 改訂版

---

介護の価値向上につながる  
職場の作り方



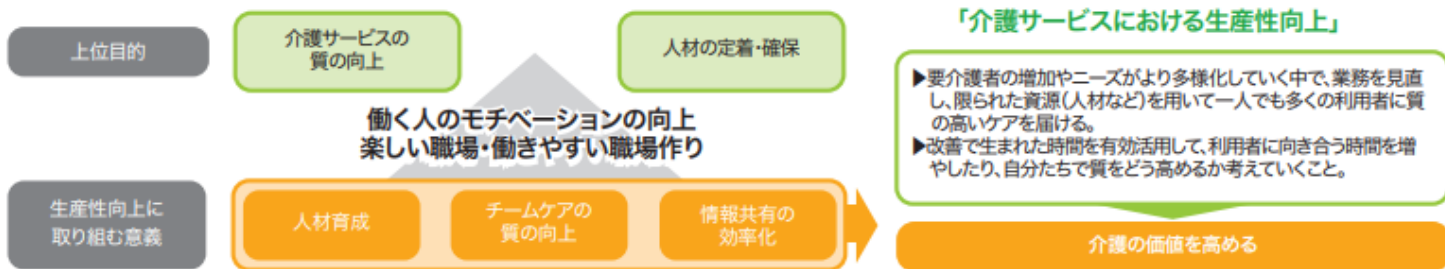
## 一般的な生産性向上のとりえ方

- ▶ 一般的に生産性向上は、従業員及び労働時間数あたりの付加価値額を設備投資や労働の効率化などによって向上させるものとされます。
- ▶ 生産性は、Output(成果)/Input(単位投入量)の分数で表しますが、実際の生産性を向上させるためには、「Input」と「Output」の間にある過程「Process」に着目して取り組む重要性が指摘されます。



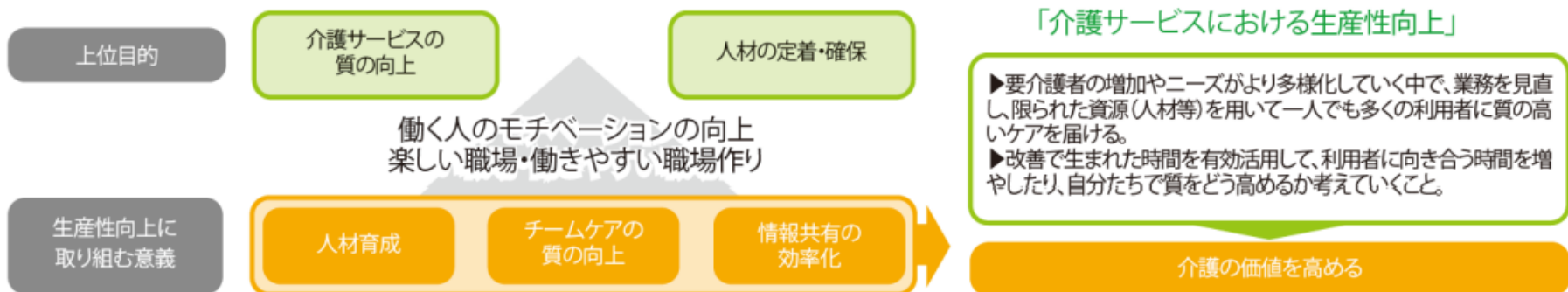
## 介護サービスにおける生産性向上のとりえ方

- ▶ 本ガイドラインでは、「一人でも多くの利用者に質の高いケアを届ける」という介護現場の価値を重視し、介護サービスの生産性向上を「介護の価値を高めること」と定義しています。本事業における介護の仕事の価値を高める取組は、人材育成とチームケアの質の向上、そして情報共有の効率化です。この3つを生産性向上に取り組む意義とし、介護サービスの質の向上と人材定着・確保を目指します。
- ▶ 生産性向上の目的のとりえ方は様々あり、例えば整理整頓により物を探す時間を短縮し、利用者とのコミュニケーションの充実やどう質を高めるか考える時間をもつことが挙げられます。そのようなとりえ方は、利用者について新しい発見をしたり、仕事の意義を再認識するなど、自らの仕事へのやりがいや楽しさを実感し、モチベーションを向上させることにつながります。
- ▶ また、評価の観点は量的な効率化と質の向上に加え、職員間での負担の偏りを是正しつつ、チームケアを通じてサービスを提供するという意識も重要です。



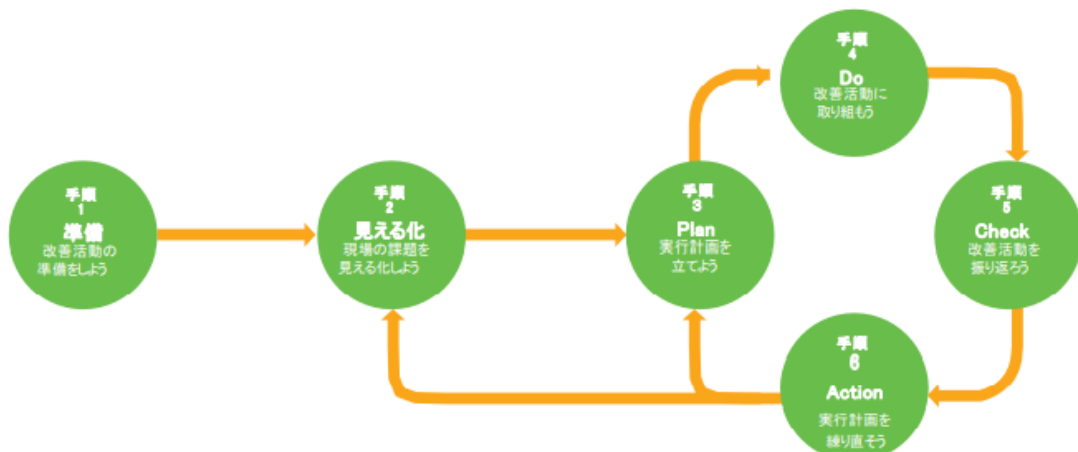
# 介護サービス事業(居宅サービス分)における生産性向上に資するガイドライン改訂版

## Chapter.1 介護サービスにおける生産性向上のとらえ方



## Chapter.2 生産性向上に向けた改善活動の標準的なステップ

本ガイドラインは、単なる手引きとしてだけでなく、後述する生産性向上支援ツールを活用し、以下の図で示す1～6の標準的な手順(ステップ)に沿った改善活動への効率的な取組方法をガイドするように作成されている。



手順1	改善活動の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善活動に取り組むプロジェクトチームを立ち上げ、プロジェクトリーダーを決める</li> <li>経営層から事業所全体への取組開始を宣言する</li> <li>「e-ラーニングツール①」を通じ、背景を理解し、取組意欲を高める</li> </ul>
手順2	現場の課題を 見える化しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>「e-ラーニングツール②」で生産性向上の一連のプロセスを学ぶ</li> <li>「課題把握シート」を使い課題を 見える化し、取り組む課題を洗い出す</li> <li>「業務時間見える化ツール」で業務を定量的に把握する</li> </ul>
手順3	実行計画を立てよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>解決する課題を絞り込み、プロジェクトチームで意見交換を行うことで、優先的に取り組むべき課題を決定する(課題分析シート)</li> <li>課題解決のために必要な取組内容や職員の役割を決定する(改善方針シート)</li> <li>3カ月程度の取組期間(Plan,Do,Check)を目安として、具体的な計画を立てる(進捗管理シート)</li> </ul>
手順4	改善活動に 取り組もう	<ul style="list-style-type: none"> <li>まずはとにかく取り組み、試行錯誤を繰り返す</li> <li>大きな成功は小さな成功の積み重ねから生まれるため、まずは小さな成功事例を作り出す</li> </ul>
手順5	改善活動を 振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の途中経過を把握し、改善活動におけるゴールを達成するために必要な軌道修正を図る</li> <li>取組の成果を検証する</li> </ul>
手順6	実行計画を 練り直そう	<ul style="list-style-type: none"> <li>上手くいった点、上手くいかなかった点について分析を加える</li> <li>優先度が低いと位置付けた課題を含め、改めて取り組む改善活動を検討する</li> <li>実行計画の取組期間(3カ月を目安)を含めて、1年を目安にPDCAサイクルを回し、改善活動を継続させる</li> </ul>

# 介護現場における 生産性向上に向けた課題

# 介護現場における生産性向上に向けた課題

- ◆生産性向上のビジョンが不明瞭である。  
⇒介護現場における生産性向上の実現イメージの共有が必要
- ◆生産性向上の定量的な定義が不明瞭である。  
⇒アウトプットである「サービスの質」「人材の定着」の定量化に課題
- ◆生産性向上に向けた「ガイドライン」の活用が不十分である。  
⇒素晴らしいガイドラインであるものの業界内認知度に課題
- ◆文書負担が膨大、自治体・事業所間のデジタル化が遅れている。
- ◆介護現場の業務分解、工数分析が不十分である。
- ◆介護現場のITリテラシーが不十分である。
- ◆生産性向上に向けた効果的なツール・機器が限定的である。  
⇒一部成果の高いツールも存在するが、多くはまだ開発途上である

# 介護現場における 生産性向上に向けた要望事項



# 介護現場における生産性向上に向けた要望事項

- ① 生産性向上の定量化に向けた『LIFE』の更なる推進
- ② ICT機器等の活用に伴う人員要件緩和の実証実験の推進  
とともに、専門職種や資格要件の見直し
- ③ 『ガイドライン』の現場認知度向上に向けた予算確保
- ④ ICT機器等の活用への事業者向け補助金の拡充とともに、  
ケアテック企業に対する開発補助金の予算確保
- ⑤ 文書負担軽減に向けた過度なローカルルール解消促進
- ⑥ 介護現場における生産性向上実現ビジョンの策定

# 介護現場における生産性向上に向けた要望事項

## ① 生産性向上の定量化に向けた『LIFE』の更なる推進

介護分野における生産性向上に向けた最も大きな阻害要因の1つが、生産性向上の定義が定量化されていないことであり、「サービスの質向上」と「人材の定着・確保」をアウトプットとすることが示されているものの「サービスの質」が定量化されておらず、生産性向上の有無を検証することが困難であり、様々な政策が推進され難い状況です。

令和3年度介護報酬改定において、科学的介護情報システム『LIFE』の本格運用が開始され、サービスの質の定量化に向けた1つの参考指標が示されることとなりました。

当連盟では、科学的介護、自立支援・重度化防止の推進に不可欠な『LIFE』が生産性向上の推進にも最優先課題であると考えており、次期介護報酬改定において、『LIFE』に関連する加算の大幅な拡充と、サービス分類の拡大、アウトカム評価を拡充頂くことを強く要望致します。

# 介護現場における生産性向上に向けた要望事項

## ② ICT機器等の活用に伴う人員要件緩和の実証実験の推進 とともに、専門職種や資格要件の見直し

介護分野における生産性向上に向けた阻害要因の1つが、人員基準要件です。前述した「サービスの質」の定量化を行い、「サービスの質」と「人材の定着・確保」を行うことを条件として、要件緩和の検討をお願いしたいと思います。

『介護ロボット等による生産性向上の取組に関する効果測定事業』において進められている実証に基づく検討の更なる推進を強く要望致します。

また、当連盟では、介護職員の人員配置要件の緩和もさることながら、医師、看護師、介護支援専門員、生活相談員、サービス提供責任者、機能訓練指導員、栄養士等のその他専門職種の人員配置要件の見直しや、それら専門職種の資格や該当基準の要件についても、合わせて、「サービスの質」と「人材の定着・確保」を行うことを条件として、要件緩和の検討を要望致します。

# 介護現場における生産性向上に向けた要望事項

## ③ 『ガイドライン』の現場認知度向上に向けた予算確保

『介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン』は大変素晴らしい内容であり、現在、このガイドラインを基軸とした生産性向上に向けた様々な政策が実行されているところでもあります。しかしながら、このガイドラインが残念なことに介護現場で有効に活用されているとは言い難い状況にあります。そもそも認知度が十分でないこと、また内容は素晴らしいものの量が膨大であり、現場が取り組む意欲が生じ難いことなどが要因であると考えられます。

このガイドラインの現場認知度向上に向けた取組に対する予算を大きく拡充頂くことを強く要望致します。

具体的には、例えばまずはガイドラインを活用しようという意欲を持たせるための取組に注力することや、現状のガイドラインの簡易版を作成するなどの創意工夫を行うとともに、介護事業者に対する「生産性向上セミナー」や、「ガイドライン活用方法勉強会」等の開催に対する予算確保ならびに関係団体に対する事業委託等の検討を強く要望致します。

# 介護現場における生産性向上に向けた要望事項

## ④ ICT機器等の活用への事業者向け補助金の拡充とともに、 ケアテック企業に対する開発補助金の予算確保

介護現場における生産性向上に向けて、DXの推進、AIやICT機器・ロボット活用が急務であり、政府においては、事業者のDX推進に向けた補助金等含めた支援策を多数講じて頂いており感謝申し上げます。

引き続きこれら支援策の更なる拡充を要望致します。他方で、これら支援策の活用により介護現場のDX化は着実に推進されていますが、活用すべきICT機器やロボットの多くは、将来の可能性は秘めているものの、現時点においては十分に現場の生産性向上に寄与するとは言い難いツールが多数であり、現場で効果的に活用できるツールは極めて限定的であると思います。

真に現場の生産性向上を実現できる機器の開発には、中長期視点での戦略が必要であると思います。現在、これら機器開発を行うケアテック企業に対する開発等の補助は中小企業に対する「ものづくり補助金」など極めて限定的かつ、少額での支援であります。介護現場のDX化の推進、生産性向上に向けて、先進的な取り組みを行っているケアテック企業に対する開発補助金等の予算確保を検討頂けることを強く要望致します。

# 介護現場における生産性向上に向けた要望事項

## ⑤ 文書負担軽減に向けた過度なローカルルール解消促進

政府・厚生労働省等において、文書負担軽減や、デジタル化の推進、過度なローカルルールの見直しに向けて様々な取組を実践頂いていることに感謝申し上げます。その上で、更なる推進をお願いするとともに、とりわけ、過度なローカルルールの改善について注力を頂きたいと思えます。合わせて、文書量の削減のみならず、そもそも作成する文書の種類を削減頂くことを強く要望致します。

## ⑥ 介護現場における生産性向上実現ビジョンの策定

介護分野における生産性向上に向けた大きな阻害要因のひとつは介護現場の生産性向上に対する忌避感や苦手意識です。それを取り除くためには、介護現場に対し、生産性向上が実現された後に、どのような未来が待っているのか期待感の持てるビジョンを示すことが重要であると考えます。「介護現場における生産性向上ビジョン」のようなものを策定し、政府が強いリーダーシップのもと推進頂くことを要望致します。また、当連盟では、大阪・関西万博2025のシグネチャーパビリオンへの協賛を行います。パビリオンにおいて「新しい介護の未来」を発信する準備を進めており、政府による支援策をお願いしたいと思います。